

# 遊びの中で「なりきる」姿

遊びの素晴らしいところの一つにじぶんのなりたいものに何にでも「なりきる」ことができることです。遊びの中で「なりきる」ことにはどのような意味があり、こどもたちの内側では何が起きているのか、Eさんの事例から見てみようと思います。

Eさん

魔女になる

アイドルの衣装  
を見る

5月「白い魔女」

Eさんはアイドルになりきっていた人たちが着ていた、カラーポリでできた白い衣装を指して、「こういうので白い魔女のお洋服を作りたい。」と話す。教師がマジックで書いた線をEさんが切り取って腕や首を出せるように作る。



交通安全教室で  
おまわりさんを見る

7月「こんなのちがう！」

青い画用紙をつなげて警察の制服を作ったEさん。遊戯室で箱積み木を「白バイ」に見立てて警察になりきる。しばらくして急に怒った調子で「こんなのちがう！」と言って着ていた服を脱ぎ捨てる。Eさんは教師のところに来て「もっと布みたいなので警察の洋服作りたい」と話す。不織布を使って教師と一緒にどんな形がいいかを考えながら作り始める。「スカートにしようかな」などつぶやきながら作り進める。



警察官になる

パペットで使われている  
キャンバスを見る

7月「ベビーちゃんを作る」

不織布で作った警察の制服を気に入って使っていたEさん。パペットを作る遊びをしている人の様子を見て、「一緒に働くベビーちゃんを布で作りたい」と話す。ペンで「ベビーちゃん」の絵を描いて、教師がミシンで縫い合わせ、Eさんが綿を詰めて「ベビーちゃん」が完成する。パトカーに乗せて使ったり、消防隊や救急隊の「ベビーちゃん」を作り増やしたりして遊ぶ。仲間が増え、「ベビーちゃんの街を作りたい」と話す。



Eさんの中のイメージと遊びは相互に影響し合いながら充実していくことがわかりました。その過程で、思い通りにいかないこともありました。それも自分自身の内面と向き合う大切な時間だと考えます。そして、身の回りの出来事や素材、教師の援助をヒントとしてからめとりながら遊びを進めていく姿がありました。自分のイメージをもってそれを少しずつ変化させながら「なりきる」の面白さ味わい、さらに面白くしていこうとするEさんの姿に、遊びの中で「なりきる」意味を感じました。

(岸 拓実)